

## 第 11 章 耐津波工学の体系化（主担当：今村，担当；幹事団全員）

### Framework for tsunami resistant technology

東日本大震災および最近の事例から得られる経験，教訓を基礎に，耐津波安全性の基本原則をまとめ，与えられた外力環境に対し，地震・津波作用下で原子力発電所および周辺に起こりうる事故シナリオと，安全に関わる機器・構築物を整理し，対応・対策の基本を整理する．

ここでは，それは個別の構造物・システム・機器（SSC: structure, system, component）の問題から，それらの安全性能と不確定性が高い地震・津波の作用を統合的に評価するリスク論、その手段としての確率論的リスク評価（PRA）を含む体系として構築を検討する．

#### 11.1 本報告書でまとめられた耐津波工学の枠組み

原子力安全（施設内外）での基本事項

リスク論を基盤とした津波防御の体系

事故シナリオに基づく安全性能の評価と工学的検討

#### 11.2 分野横断的討議をふまえた総合的検討結果

地震工学、津波工学、原子力安全工学の分野横断的討議の内容

得られた結果と今後の課題

#### 11.3 残された課題

安全性能の評価と工学的検討：構造物・システム・機器（SSC: structure, system, component）の問題

リスク論での課題：全性能と不確定性が高い地震・津波の作用を統合的に評価するリスク論での課題